RASHINBAN

「神様のものさし」を持って、三つの「お」の生き方を！

現在、金光教東京学生寮寮監の御用をさせて頂いておりますが、寮生たちに『神様のものさし』を持って卒寮して頂きたい」と常に語っています。「人間のものさし」は目盛りがありますが、「神様のものさし」は目盛りがありません。だから測れません。人間のものさしは測れるために、そこに「大・小」、「上・下」、「優・劣」など価値が生まれます。すると、その価値を比べて悩んだり、役に立たないものは差別したり、排除してしまいます。神様のものさしは、全ての存在を大切にします。だからこそ測らないんです。

「人を大切に、自分を大切に、物を大切に」、これは金光学園の実践理念ですが、私はもう一つ『いま、ここ』を大切に」と時間・場所の大切さも加えています。

この「すべてを大切にする」生き方をしていくために「おかげ様、お互い様で、お先にどうぞ」という三つの「お」を提唱しています。まず一つ目の「おかげ様」です。日常生活で「コンビニがもっと近くにあれば」とか、「バイトの時給が安い」とか、色々と比べて愚痴不足を並べてますが、普通に生活できていることが当たり前ではないということです。気仙沼でのボランティアで、ある被災者の方が、「地震前の暮らしは、夢のような生活でした」と仰いました。その当時、ボランティアに行っていた寮生たちは、東京にいる自分たちは「夢のような生活をしているんだ」と当たり前のことが当たり前ではないと実感しました。すべてはおかげの中でのことであり、何事も「おかげ様で」と受け取っていく生き方です。

二つ目の「お互い様」です。現代人の悩みの全てが人間関係にあると言われているように、人と比べて悩んでしまい、心を病んでしまう人が増えてきました。それも周囲に気を遣い、相手の立場に立って誠実に人に接し、本当にやさしい、いい人がなりやすいのです。親や教会の先生にもなかなか本音が言えません。「人や親に迷惑をかけたくない、期待に応えたい」といい子を演じてしまい、完璧を求めて頑張りすぎます。そしてちょっとしたつまずきに自信が持てなくなり、悩みをため込みます。でも、すべての人間は元々弱く不完全なものです。だからこそ「お互い様」で助け合うのです。お互い様と思えば自分に完璧など求めないし、相手にも求めません。「人にやさしく、自分に一番やさしく」です。自分を大切にすること、それには自分に実意、正直に、神様の前では全てをさらけ出してほしいと願っています。

辻井　篤生
（和歌山・勝浦）

三つ目に「お先にどうぞ」です。エレベーターの前で「お先にどうぞ」と言うのは難しくないでしょう。でも「タイタニック号、最後の救命艇、最後のシート」を前にして、「お先にどうぞ」と言うのはそれほど簡単ではありません。現実になった時にどうなるかはわかりません。この問いはそれを問うているのではなくて、生き方の問題です。もしそれまでの人生が悔いのない、やり残したことのない生き方をしていれば「お先にどうぞ」と言えるはずです。つまり、その時、その瞬間を丁寧に生きているかどうか。よく「なぜ勉強するのか？」との質問に「いい大学に合格するために」、「いい会社に就職するため」、「将来立派な大人になって幸せになるために」と言います。しかし、これでは高校や大学の勉強は単なる準備期間、手段となってしまい、その価値を失ってしまいます。人間にとってどんな世代もどの瞬間もその後の人生のためにあるのではなくて、今月今日に価値があります。この究極の「お先にどうぞ」を意識していれば、普段の生活で少々後れをとっても「お先にどうぞ」と言いやすく、人と比べて悩むこともなくなるでしょう。

最後に、幼い頃に事故で両手片足を失った前寮監、中山亀太郎先生のお言葉を紹介します。「手がないとか、足が悪いとか、からだに引け目のある時はむろんのこと、貧乏だといってひがみ、美人でないといってひねくれ、隣に倉が建ってうちでは腹が立ち、などと言う人もあります。他人にくらべて、引け目を感じた場合に、境遇をのろったり、憎んではなりますまい。引け目を誇りとすることだと思います。引け目を誇りにする生活とは、『真剣に苦しみ、真実に生き、運命を愛し、運命を生かす』ことによってできるのであります」。